

キャリアに拓く 4年生の活動



鳥取大学附属という環境を生かして子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」。4年生は、11月25日に乾燥地研究センターに行き、学習を深めました。

センターに到着すると、センター長さんが迎えてくださいました。まず最初の活動は、センター長さんの講義「砂漠化する地球を救え！」です。「鳥取砂丘は砂漠でしょうか。」という質問から始まり、乾燥地とはどういうところなのか説明をしていただきました。



また、砂漠には砂砂漠、土砂漠、レキ砂漠と種類があること、砂漠の面積が広がっていく砂漠化が、地球規模で進んでいること、それを食い止めるために世界中の人々と協力して研究を行ったり実践を積んだりしておられることを教えていただきました。そして、小麦などを乾燥地から輸入していたり、乾燥地で起きた砂あらしが黄砂として飛んできたりするなど、それら乾燥地と私たちの生活は密接に関係しており、自分たちの問題として考えていく必要があることも学びました。



その後、乾燥地で生きる動物や植物の展示を見せていただき、説明をしていただきました。また、モンゴルの住居であるゲルや乾燥地での衣装などの展示も見ることができました。

また、降雨装置を使った実験を行いました。砂だけ、砂と芝、粘土だけ、粘土と芝の4つの土地の状態に雨を降らせ、流れ出る水の量を測定しました。乾燥地に植物を植えることが砂漠化を食い止める一つの方法ですが、乾燥地の雨は、土を流してしまい植物が育ちにくい環境にしてしまうことがあるそうです。そこで、土の種類を変えたりや植物を植えたりすることで、土が流れにくくなり、新しい植物が育つことができるようになることを実感できる実験でした。子供たちは、少しの雨でも植物が植わっていないと多くの土を流してしまうことについて、実際に見ることで発見することができたようでした。

乾燥地について研究している国内唯一の機関の役割や世界・地球を守るための研究の内容一つ一つ



に、子供たちは驚き、学びを深めることができました。そして、問題解決に向け、地道に取り組んでおられる姿や、自分たちに熱心に関わってくださる姿に、あこがれと感謝の気持ちをもつことができました。